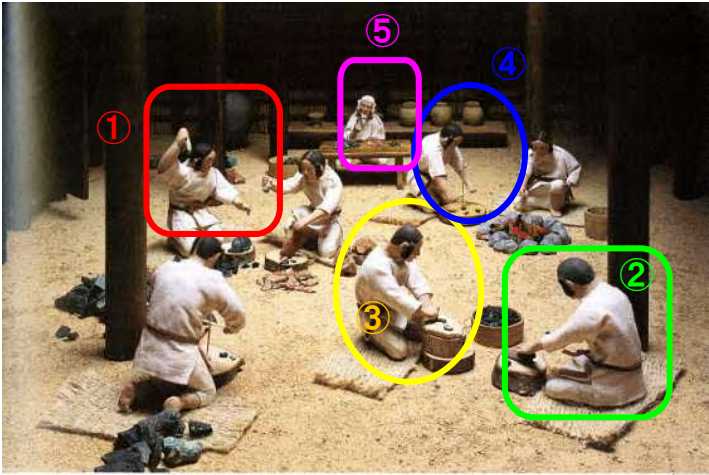


No.4	時代	古墳時代	遺跡	玉作工房跡（松江市玉湯町）など
古代の宝石「まが玉」				
「玉」はその神秘的な輝きから、古来より装身具として使われたり、儀式などに用いられました。古墳時代になると、「権威のシンボル」としての役割を果たしていたこともありました。松江市玉湯町は、全国における玉作の中心地で、花仙山産の原石で作られた玉は全国で見つかります。				



玉作工房の復元予想図と作業工程

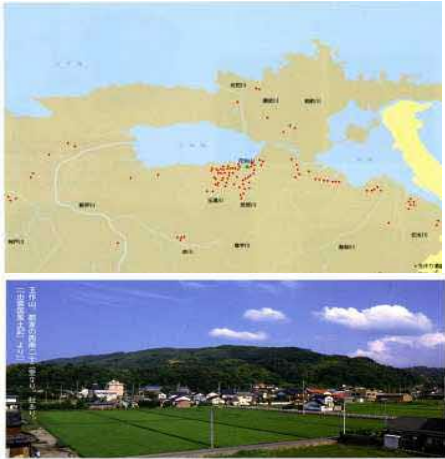


まが玉ができる過程

- ① 大きな原石を小さく砕いている。
② ちょうどいい大きさに削っている。
③ 頑張ってひたすら磨いている。
④ 玉に孔をあけている。
⑤ 長老が玉の出来を確かめている。

まが玉を身につけた
馬上の大首長

築山古墳（出雲市）の
出土品から復元



玉作工房跡（●）と花仙山



まが玉の広がり

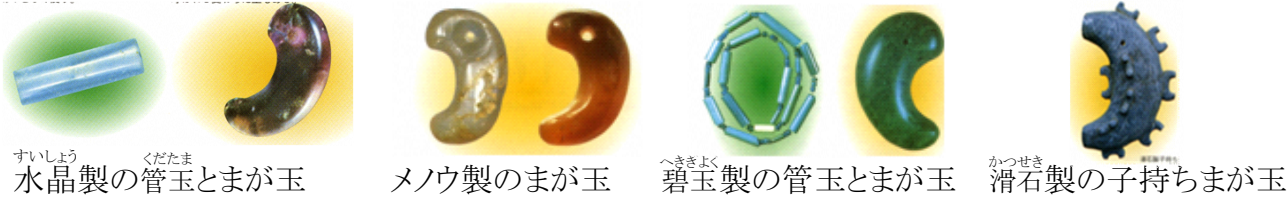


学習のポイント

- 松江市玉湯町は、古代は玉作の中心地であった。
- 王は権威のシンボルとしての役割を果たしていた。
- 玉を作る工程は非常に大変であった。

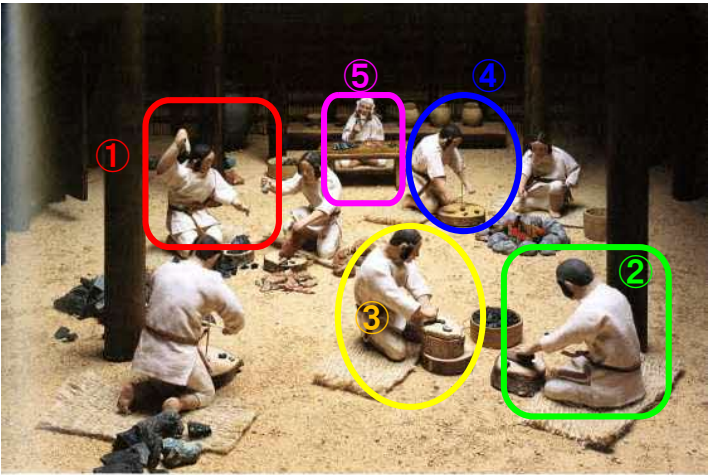
古代の宝石「まが玉」

「玉」はその神秘的な輝きから、飾りとして身につけられていました。古墳時代になると、「権威のシンボル」としての役割を果たしていたこともありました。松江市玉湯町は、全国における玉作の中心地で、花仙山産の原石で作られた玉は全国で見つかります。



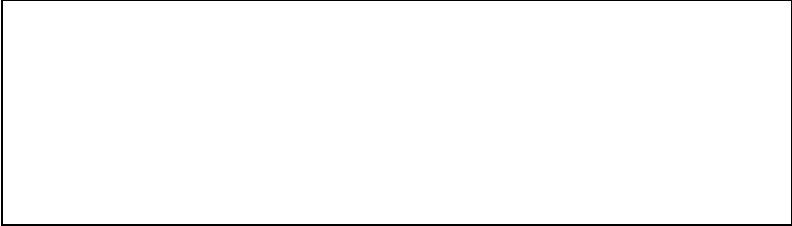
まが玉作りの工房をのぞいてみましょう。

①～⑤の人たちは何をしているのかな？



- ① ()
- ② ちょうどいい大きさに割っている。
- ③ がんばってひたすら ()。
- ④ まが玉に ()。
- ⑤ 長老が ()。

まが玉作りで苦労した点を想像してみよう。



まが玉の広がり

資料の出典	「いにしへの島根ガイドブック 1996 島根県古代文化センター 「古代出雲歴史博物館 展示ガイド」 2007 古代出雲歴史博物館
-------	---